

研究開発最終報告書

実践校種別	学校名
信州に根ざしたグローバルな学びを推進する高校	須坂 高等学校

1 実施期間

令和2年4月1日～令和7年3月31日

2 研究開発計画（令和元年度策定）の5年間の概要

(1) 構想名
SAH(Super Academic High school) 地域の知と創造の拠点 ～大学のないまちの大学のような高校～
(2) 研究開発の実施対象
須坂高校全日制課程普通科 1～3 学年全校生徒対象
(3) 研究開発の目的と目標
大学のないまち” 須坂市において、地域の知と創造の拠点として、世界と地域を関連づけた教科横断的な課題解決型学習（PBL）や実践的な英語学習を行い、グローバルな視野をもちながら地域・社会に貢献できるリーダー（地域イノベーターの意識をもった起業家、地域行政・医療を担う人材等）を輩出する。
(4) 研究開発概要（目標を達成するための具体的取組や方策）
「地域の知と創造の場」としての柱を GoGaKu（5つの学び）とし、世界・地域双方を学びのフィールドとして、須坂市や大学等と連携し、世界と地域を関連づけた PBL 等の「自主的な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」を行うことにより、「GoGaKu 力を駆使して地域や世界とつながり社会貢献する力」、「高い志をもち国際社会をたくましく生き抜く人間力」等を育成するために、次の通り取組を進める。 (ア) プログラム開発について これまで係や担当が独自に行っていた教科外のプログラムについて、SAH の理念による整理を行った上で実施し改善のための評価を行う。 信州型スーパーグローバルハイスクールにふさわしい新規のプログラムを開発しその改善を図る。 SAC(Suzaka Academic Challenge) with Harvard Students を円滑に実施する。 (イ) プログラムの評価について 学習指導要領で示されている学力評価の3観点を、本校独自の生徒につけたい力として5つの観点に分けた GoGaKu 力により各プログラムの評価を行う。 各プログラムでつけたい力が向上しているか、生徒の事前事後の評価を行う等評価方法の研究を行い、プログラム改善の PDCA サイクルを構築するとともに、プログラム開発の効率を高める。 (ウ) リベラルアーツ型単位制の研究 生徒の選択自由度を高めるため、令和4年度から導入しているリベラルアーツ型単位制について、SAH の理念と関連づけた講座展開について研究を行う。

3 最終年度の研究開発計画（令和元年度策定）における目標や目的の達成状況について

（1）プログラムの開発について

本校ではそれまで各係や担当ごとに行っていた取組を、SAH 委員会により体系づけて実施できるようにした。委員会は各教科の代表で構成され、広い視野で課題の検討を行えるようにした。また定期的に行われる教科会で検討のスピードが速いことも効果的に機能した。

各取組ごとの担当者、評価の観点をまとめ一覧にし取組の都度評価を行うようにした。GoGaKu 力による評価を生徒の自己評価を中心に実施し、教員のねらいと生徒の意識のずれを明らかにするなど、前例踏襲の実施に陥らないようにすることができた。

取組みと GoGaKu 力・評価の 3 観点の関係					吾	互	悟	語	郷
					自主性	協働性・協調性	探究心・論理性	国際性	地域性
					自己理解・責任感	他者理解・リーダーシップ	探究力・適応力	異文化理解・共感力	課題分析力・将来構想力
評価の 3 観点					知識・技能	○	◎		○
					思考・判断・表現	◎	○	○	
					主体性・協調性		◎	○	○
種別	< 取組 >	生徒	回数	担当係					
GLOBAL	①須坂・羅東交流	全校	8 回	国際交流係		○		◎	
	②須坂・梅香交流	全校	4 回	国際交流係		○		◎	
	③修学旅行	2 年	11 月	2 学年		◎	○	○	
	④SAC(須坂アカデミックチャレンジ)	1 年	11 月	SAH 委員会			○	◎	
LOCAL	⑤りんどう祭（文化祭）	全校	6 月	生徒会係	◎	○			
	⑥県内大学企業見学	1 年	10 月	進路支援係	○	○			◎
	⑦インターンシップ（就業体験）	1 年	8 月	進路支援係	◎	○			○
	⑧小学校英語授業サポート	希望	3 回	SAH 委員会	○			◎	
	⑨Let's Try Project	希望	通年	地域コーディネーター	○				◎
	⑩SAP(県自然科学プログラム)	希望	通年	SAH 委員会	○		◎		
総合型	⑪人権教育講演会	全校	11 月	人権係		◎			○
	⑫総合的な探究の時間	2・3 年	通年	探究委員会	○	○	◎	○	○
	⑬哲学対話	1, 2 年	2 回	探究委員会	○	◎			
	⑭岩波講座高校生編	1, 2 年	1 月	生徒会係			◎	○	
	⑮生徒会フリートーク	希望者	随時	生徒会係	◎	○			
	⑯東京大学金曜特別講座	希望	通年	SAH 委員会	○		◎		○

（2）プログラムの評価について

学習指導要領で示されている評価の 3 観点を、本校独自の生徒につけたい力として 5 つの観点に分けた GoGaKu 力により各プログラムの評価を行った。各プログラムでつけた力が向上しているかは事前事後の評価を行うことによるとしたが、全ての取組において定量的な評価を行うまでには至らなかった。一方で中心的な取組について、評価を行うことにより改善方法の PDCA サイクルを構築することができている。教科指導、特別活動・部活動において、生徒・教員ともに探究的なアプローチを土台として取り組めるようになった。

てきている。いくつかの取組について、その進捗と評価についてまとめた。

(ア) グローバル感覚の醸成

本校で特に力を置いて指導をしているグローバル感覚の醸成について、平成 30 年、令和元年と 2 年続けて台湾修学旅行を実施したが、海外からの修学旅行生との対面交流を除けば、事前の学習機会は限られていた。

SAC (Suzaka Academic Challenge) という 3 日間英語漬けのセッションを一学年全員に実施する取組を令和 2 年から実施した。様々な背景を持つ 30 カ国以上の国からの留学生を講師として招聘するとともに、現役のハーバード大学の学生のオンラインによるセッションで、単に英語に触れて使うだけでなく、国際感覚を磨くことにつながるよい機会となっている。決して安価ではできない取組を学年全員に実施することにより、地方の公立高校にあっても世界と直接触れることができることを示し、経験格差を少しでも解消したいと考えている。生徒たちの評価も非常に良く、学習に対する意識付けの向上にもつながっている。

<SAC2024 事後アンケートより>

- ・ 1 日目や SAC に挑む前の自分とは全然違う自分になれた。最初はなんて伝えればいいかわからなかったし、間違っていたら嫌なため積極的にコミュニケーションができなかったが失敗をしてもいいんだということを学べた。

またハーバード大生との交流では 1 日目は台本にしたがって読んだりすることくらいしかできなかったが 3 日目では失敗しても大丈夫だということから積極的に話したり相手の反応に応える余裕が出てきてその場に応じたことができた。簡単な単語を並べるだけでもいいから伝えようとする姿勢が出てきたり、**聞く・話すということに対しての姿勢がとても変わった。**

- ・ この 3 日間でとっても楽しかったし、**自分を変えたりするいい経験になった。**

Speaking English is difficult for me. However, after speaking a lot of English at SAC, I learned that English is very fun. So, I want to study English more. Thank you for the wonderful experience.

自信がなくても、緊張しても、少し不安でも、まずやってみることが大切だと学ぶことができた。これから様々なことに挑戦して、様々な国に行ってみたいと思った。

放課後の LL 教室でのメンターとの会話がすごく楽しかった。自分から進んで英語を使えてよかった。とても達成感がある、**成長を感じられる 3 日間になった!**

- ・ 母語以外の言語で話すことは、英語力が高いことではなくて、コミュニケーション能力が高いことや、どれだけ積極的にハンドサインや表情で示すかということも重要だと気づいた。

- ・ 最初は、「つまらないものを持ち込んできたな〜、学校側は!」と思っていた。

けれど、終わってみて「もう終わりなのか」と思う気持ちが今はある。それだけ自分はこの講習が楽しかったのだと感じている。**学びも多くあったと思う。リスニング、文法、人との協調性、コミュニケーション能力、発想力など、本当にたくさん。**

コロナ禍を契機に生徒のタブレット導入に始まり、オンライン交流が手軽にできるようになってきたこともあり、姉妹校である台湾羅東高級中学と年に8回程度のオンライン交流を実施した。交流参加者は固定化されたものではなく、探究の成果発表から興味関心に応じたテーマなど様々なテーマを取り上げ、希望者も積極的に参加させ全校生徒の半数以上が交流に参加している。個人的に友情を深めることにより、対面交流の際により親密な交流ができるようになった。

＜オンライン交流 事後アンケートより＞

- ・言語が違うことで伝わりにくい部分はあったけど、それぞれの文化の多くは言語に関係なく、絵や写真を用いて伝えられるものが多いと感じた。自分とは違う環境で学ぶ学生と関わったので面白かった。
- ・他者や他国を理解できたと同時に自分のことや身の回りのことも改めてよく知れた
- ・台湾や韓国の文化を理解することはもちろんですが、日本の文化も興味を持ってくれました。語学に自信もつきました。

一学年全員の SAC にはじまり、定期的な姉妹校とのオンライン交流をへて、海外修学旅行により現地で対面交流を果たす一貫した指導が実現することとなった。

これに付随して令和4年からは韓国梅香女子情報高校とのオンライン交流が始まり、絵本の共同制作等をとおして令和7年希望者による韓国訪問による対面交流の実現することができた。

国際プログラム以外に、海外からの留学生を積極的に受け入れを進めている。これらの指導の流れをとおして、検定受験者、海外留学に出かける者、卒業後海外大学に進学する者等、英語に対する興味関心の高まりとともに国内にとどまらない学びの場を求める者が増えている。

(参考) 英語検定 令和5年度1級合格1名、準1級合格3名

留学生 令和5年度アイスランド、令和6年度 フィンランド

(イ) 自治意識・探究意識の涵養

これまでも、本校は「フリートーク」を生徒会行事として定期的実施し、自身の意見を相手に納得してもらえよう伝える伝統がある。

1年次に1時間、2年次に2時間展開する総合的な探究の時間において、特に1年生が自分の思いを的確に言語化して相手に伝え、相手の思いを慮ることができるようになるために哲学対話をその入口として取り入れた。これにより自己を見つめて相手と語り合う手法を学んだ生徒たちが一人ではできない、より深みのある探究活動につなげることができるようになった。

一連の活動を通じた自己有用感の向上により、学校生活の満足度は高まるとともに、その後の生徒会活動等においても、その成長した姿を見せてくれている。

＜哲学対話 事後アンケート＞

語彙力、論理的思考力が向上した

好きなことを追求して世の中のために使うことができるということを学んだ。

自分とは全く違う考えを聞いてもっと色々な角度から物事を見ることの重要性に気づいた
他者の考えを受け入れ尊重してから自分の考えともう一度照らし合わせて考えることができるようになった。

（３）リベラルアーツ型単位制による履修の柔軟性

令和４年度に開始したリベラルアーツ型単位制の教育課程は、生徒の選択自由度を高めた受験学力のみの育成をしない編成を目指している。同一科目の複数講座展開において教員による習熟度別編成のみによらず生徒の選択希望を入れた編成を行っている。教員定数の関係もあり全ての教科で実現するに至っていないが、取り入れる教科数は年ごとに増加している。

３年次で、２年次の総合的な探究の時間をさらに発展された探究的な学びのために、１単位分設定している自由選択枠では、教員がデザインした受験に直接関係の無い学校設定教科「グローバルスタディーズ」及び関連学校設定科目を１７科目設定した。これらの科目は１名しか受講希望がいなくても開講して個人の探究に応えうる展開を行っている。令和７年度入学生の教育課程では、３年次自由選択枠を２単位に拡充して、より選択の自由度を高めることにしている。

４ 研究開発と学校全体の教育活動の改善・改革との関連づけ

学校教育活動を SAH 事業として位置づけることにより、体系化された実施ができるようになり、職員間の連携が強まり負担感が減少している。

学年で担当していた修学旅行の業者選定から始まる諸計画を、SAH 委員会が主導となり学年が共同で行うなど、部署ごとの連携が密になるとともに効率良く進捗するようになった。

たとえば進路係が行っていたキャリア講演会を、令和５年度より２年次の探究活動の導入に資する取組として探究講演会として実施した。１４人の講師による自身の専門分野や仕事の内容について話してもらいその後の探究課題の設定につなげるよう工夫したものである。進路の担当だけでなく探究の担当も行動で一つの取組をよりよいものにしていこうという姿勢があった。

本事業をとおして、教育活動の中で GoGaKu 力が生かされるように意識づけられるようになったため、探究的な学びの推進を学校課題としてより身近に感じ、生徒が直接取り組むプログラム、教育活動の根幹を成す教育課程の改善に先進的に取り組もうとする雰囲気がある。

5 研究開発で明らかになった課題及び改善方策

(1) 各プログラムの評価の徹底

各プログラムの評価のためのアンケートは、ほぼ統一の形でできるようになった。しかし、生徒の自己評価を中心としただけのアンケートでは、経年の変化を見たり、客観的な評価に耐えうるものとしては不十分である。今後に向けて、これらの点の改善をすることで、この事業の成果が将来的にも学校としての軸となり、向上していくものにすることが課題である。

(2) 事業全体の評価

個々のプログラムでえられた生徒の様子、変容の情報が共有されず事業全体の達成を評価する指標の検討ができていない。

今後の自走に向けて、個々のプログラムによる生徒の変容やその評価を共有する仕組みを構築し、学校全体としてコンセンサスを取りながら教育活動を進めていけるようにする。

(3) 持続可能性の追求

プログラムの実施にあたり従前どおりの担当任せとなっていることが多く、連携できない場合に、担当職員の負担感につながる。その結果として、この事業が終わった後に成果を生かした活動が持続しない恐れが出る。それを解消し、この事業の財産を継続的に発展させることが課題となる。

6 次年度以降の成果普及の取組と自走計画

(1) グローバルと探究を軸としたブランド化の推進

①全体

- ・ 生徒の選択の自由度を高める教育課程の工夫
- ・ すべての活動を探究的な学びと結びつけ、3年間を見通した教育活動の工夫
- ・ 探究アーカイブ、オンデマンド研修教材作成
- ・ 地域連携コーディネーター・国際連携コーディネーターの起用による地域と世界と直接リンクしたプログラムの提供

②学年別

1 学年

- ・ 総合的な探究の時間の計画作成と体系化
- ・ SAC の発展的展開の検討
- ・ 哲学対話

2 学年

- ・ コーディネーターの介入による総合的な探究の時間の深化
- ・ 台湾修学旅行と探究活動のリンク
- ・ 海外とのオンライン交流と海外研修の体系的実施
- ・ オンデマンド研修（台湾、韓国）の開発

3 学年

- ・ 探究的な学びの総仕上げとしての進路実現に向けた取り組み
- ・ リベラルアーツ型単位制での自由選択枠の拡大

(2) 自走に向けての課題

- ・探究的な学びを授業・生徒会活動・クラブ活動などすべての活動の軸として、生徒の多様な進路につながる「リベラルアーツ型単位制」を実現するための、効果的な教育課程の開発とそのための人材の確保
- ・探究的な学びを推進のための助言や外部と学校の仲介を担う外部人材(地域連携コーディネーター・国際連携コーディネーター)の確保
- ・学校外からの支援も受けながら、これらの人材を確保するとともに、より効果的な取組の実施により成果普及を図りたい。

7 令和6年度（最終年度）の事業実施体制

(1) 令和6年度の研究開発の実績

① 取組の到達目標(又は仮説)、実施(活動)日程及び内容

【目標】

「地域の知と創造の場」としての柱を Gagaku（5つの学び）とし、世界・地域双方を学びのフィールドとして、須崎市や大学等と連携し、世界と地域を関連づけた PBL 等の「自主的な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」を行うことにより、「GoGaKu 力を駆使して地域や世界とつながり社会貢献する力」、「高い志をもち国際社会をたくましく生き抜く人間力」等を育成する。

5年目の令和6年度は、2－(5)に示したように、5つ(吾・悟・互・郷・語)の力に基づいて、生徒の自己評価を中心としながら、実施計画に示す取組とともに、日々の授業実践や課外活動にもその理念を普及し、学校の教育活動のあらゆる場面において教職員が取り組める体制を確立することを目指す。

また、リベラルアーツ型単位制の研究を進め、学校設定教科・科目をはじめとして、生徒の選択自由度を高めることのできる単位制の仕組みを生かした教育課程編成の研究を行う。生徒の選択を促し、生徒が本当に“やりたい事”を引き出すとともに自己肯定感の向上とキャリア教育の充実を図る。

【実施(活動)日程及び内容】

①②台湾羅東高級中学校および韓国梅香女子情報高校との交流

【対象：希望者、実施日程：年11回】

それぞれの高校生とオンラインを通じてやり取りを深める中で、各国の事情を理解するとともに、交流の積み重ねを修学旅行での交流事業につなげていく。

<実施内容>

台湾羅東高級中学校

4月15日(月) 来訪、対面交流

5月22日(水)、29日(水)、10月30日(水)、11月13日(水)、

12月11日(水) オンライン交流

韓国梅香女子情報高等学校

5月8日(水)、6月12日(水)、9月4日(水) オンライン交流

令和7年3月25日(火) 韓国訪問、対面交流

③修学旅行【対象：2 学年、実施日程：11 月】

SAH 委員会が2 学年と共に旅行計画を構築。令和5 年度はコロナ禍により国内旅行となったが、令和6 年度は台湾の予定である。羅東高校とのオンラインによる交流を実施した上で、現地で台湾の高校生と学びあいながら台湾旅行を進める。

＜実施内容＞

11 月 19 日(火)～22 日(金) 目的地：台湾(台北市、宜蘭県)

コロナ禍の影響で 2019 年以降実施できなかった台湾修学旅行が 5 年ぶりに実施できた。姉妹校締結 5 年目を迎えた宜蘭県の羅東高級中学校での記念式典とそれにつづく交流を中心として、台湾の歴史・文化・人と触れ合う貴重な体験となった。台湾への修学旅行は、コロナ禍の 2020 年から続けているオンライン交流と合わせて、今年度は4 月 15 日(月)に羅東高級中学校の生徒 100 名が須坂高校を訪れ、対面の交流もできた。

④SAC(須坂アカデミックチャレンジ)【対象：1 学年、実施日程：11 月 22 日～24 日】

2 学年の修学旅行中に3 日間、JAAC およびハーバード大学生とともに英語漬けの体験型学習を実施する。

＜実施内容＞

11 月 18 日(月) 2 年生対象

11 月 19 日(火)～21 日(木) 1 年生対象

⑤りんどう祭(文化祭)【対象：全学年、実施日程：年1 回】

今年で 70 回目を迎える生徒会最大の行事であり、生徒の自主的な活動の中心にあるものである。コロナ禍でも常に「何ができるか」を問い続け、GoGaKu のすべての力を最大限に発揮することが期待でき、学年進行とともに生徒たちが目に見えて成長していく。

＜実施内容＞

日時：6 月 28 日(金)～6 月 30 日(日)

テーマ：万龍一空

内容：龍建立・前夜祭・開祭式・りんどうの歌声・寸劇・後夜祭・龍昇天他

⑥県内大学企業見学【対象：1 学年、実施日程：8 月】

1 年次の夏期休業を利用しながら、自分の今後のキャリアについて考察する。

＜実施内容＞

10 月 15 日(火)終日

大学と企業を組み合わせた8 つのコースに分かれ、進路や将来と関連づけて事前学習を行ったうえで訪問をした。事後のまとめ学習に加え、夢ナビライブへの参加も行い、進路に対する動機づけができた。

⑦インターンシップ【対象：1 学年、実施日程：8 月】

須坂・小布施・中野・長野市域の企業を研究する。

<実施内容>

夏休み中(8 月)

近隣の企業約 100 社にお願いをして、1 学年の生徒全員が半日または 1 日のインターンシップ体験をした。事前学習をしたうえで、企業とのアポ取から事後の礼状発出まで行い、進路選択に向けての動機づけになった。

⑧高校生による小学校英語授業サポート【対象：希望者、実施日程：年数回】

最寄りの小学校との連携の中で、本校生による小学生の学習支援、小学生による本校文化祭への協力を中心に活動している。学習では、5・6 年生の英語の授業にお邪魔して、子どもたちとゲームを行ったり、プレゼンテーションを一緒に作ったり等の活動を実施している。また、文化祭前に生徒会の生徒たちが小学校へ赴いて、本校文化祭のシンボルである「龍」の鱗づくりに協力してもらうなどの取組をしている。

<実施内容>

日時：第 1 回 9 月 25 日(水)・第 2 回 10 月 21 日(月)

内容：第 1 回 自己紹介と can を使ったインタビュー活動

第 2 回 he, she を使ったクイズ

参加者：1, 2 年生の希望者 23 名

⑨Let's Try プロジェクト【対象：希望者、実施日程：通年】

古民家再生プロジェクトを立ちあげた本校生徒と須坂市内の高校生が連携して『Coto²(コトコト)』が設立され、須坂市の古民家再生を実施し、現在軌道に乗っているところであるが、さらに協力関係を得て活性化につなげていく。

<実施内容>

通年

2019 年に地域課題解決に向けた探究活動「古民家再生プロジェクト」として発足した。その後 2022 年に他校や地元地域とも横断的にかかわる高校生主体の有志団体「Let's Try Project」として発展した。

現在、4 つの高校から総勢 40 人余りの高校生がメンバーとして登録し、主に放課後や土日を利用して活動を行っている。

⑩SAP（県自然科学プログラム）【対象：希望者及び 2 学年、実施日程：12 月】

パナソニック財団の助成金を得る等、既に自然科学分野でも卓越した探究活動を実践している経過があるが、こうした活動を 2 学年の探究プログラムの中に導入する。

<実施内容>

○ 採水

日程：2024年6月21日（金）～24日（月）

方法：6月21日（金）に全校生徒に水道水の採水管を配布し、自宅の水道水を入れてもらった。採水管には大字以下の住所までを書いてもらい、22日（土）、24日（月）の2日間で回収した。

○ 分析

日程：2024年8月6日（火）

方法：東京大学教育学部附属高度教育研究機構 駒場キャンパスに伺い、ICP 発光分光分析装置を使ってサンプルの分析を行った。

○ 内容

全校生徒から集めたサンプルを分析し、長野市、須坂市、中野市、小布施町、山ノ内町、高山村における水質分布を明らかにした。

⑪人権教育講演会【対象：全学年、実施日程：年1回】

人権に関わる様々な問題について理解を深め、自ら考えて行動する力を醸成するために、外部からの講師を招聘して、レクチャーやワークショップを行っている。

<実施内容>

日時：10月24日（木）15:30～16:30

講師：伊藤ひよりさん（LGBTer シンガーソングライター

テーマ：鵬程万里～歌と私と僕

⑫総合的な探究の時間【対象：2・3学年、実施日程：通年】

2学年で2時間（月曜日6・7時間目）と3学年で1時間（月曜日7時間目）に位置付けて取り組んでいる。基本的には、①探究テーマはあくまで生徒主体で決定し教員は支援するだけにとどめる、②テーマは、分野を限定しない、③テーマの親近性に基づいてグループ分けを行う、として、外部の有識者の意見を採り入れ、年間三回（計画、中間、最終）の発表会を行っている。

<実施内容>

活動時間：毎週月曜日の6、7校時（14:30～16:20）

発表会：第1回「テーマ発表会」 7月4日（木）

第2回「中間発表会」 10月21日（月）

第3回「代表選考会」 R7年1月27日（月）

最終会「情報・探究発表会」 3月19日（水）

⑬哲学対話【対象：1・2学年、実施日程：年2回】

長野県立大学の馬場先生をお迎えし、いくつかのテーマについて友と協働しながら、内容を精査し深堀していく等、思考力の醸成を目指す。

<実施内容>

第1回 6月17日（月） 2年生：インタビューの仕方

1年生：クラス替えについて

第2回 9月9日(月)合同：2年生の探究中間発表を聞き、1年生は問いの立て方を学ぶ

⑭岩波講座高校生編【対象：希望者、実施日程：年1回】

1999年から須坂市などが中心となり開催されている「信州岩波講座」の高校生版として発足した企画で、須坂市内の高校生が実行委員会を組織し、毎年講師を呼んで続けてきているものである。本校は第1回から中心メンバーとして参画しており、今年度も引き続き実行委員を出していく。本の文化と社会情勢を高校生目線で見つめながら講師を選定し、当日の会の運営まで行う。

<実施内容>

日時：12月5日(木) 14:00～16:00 須坂市メセナホール

講師：トミヤマユキコさん

演題：「10代の悩みに効くマンガ、あります」

参加生徒：須坂高校、須坂東高校、須坂創成高校

運営委員：上記3校の岩波講座担当生徒

須坂高校は、図書委員の1、2年生が中心に運営に当たった。

⑮生徒会フリートーク【対象：希望者、実施日程：年数回】

2018年に生徒会執行部が「自由の再定義」を求めて自由参加のフリートークを開催して以降、年に1、2回のペースで開かれている。須坂の伝統である「自由」を切り口にして、学校生活の様々な問題に生徒個々の考えを述べ合う。GoGaKuの本質を突いたものになっている。

<実施内容>

第1回 7月10日(水) 15:50～

テーマ：どのような授業を生徒、先生は求めているか
発言の意欲について～

⑯東京大学金曜講座【対象：希望者、実施日程：通年】

東大教養学部が主催する「高校生と大学生のための金曜特別講座」2022年度に加入し、本年度も実施している。自然科学分野から人文科学分野等、多岐にわたる講座を選択しながら、全国の高校生や大学生と共に受講し、様々な高校生、大学生の思考に触れる機会を得る。

<実施内容>

2024年夏学期13回、冬学期13回行われた同講座を、情報室を開放して希望者に受講を呼び掛けた。

その他

探究講演会【対象：1学年、実施日程：1月】

2学年から始まる「総合的な探究の時間」を進めるにあたり、生徒が探究課題を

考える材料提供を目的として、様々な分野で活躍している同窓生を中心に講師をお願いし、仕事の内容や、専門分野の話をしてもらう企画として、令和5年度に始めたものである。もともと「キャリア講演会」等の名称で行われていたものを発展させたもので、生徒たちの探究課題の決定の参考となることを目的としている。

<実施内容>

日時：12月19日(木) 13:30～16:10

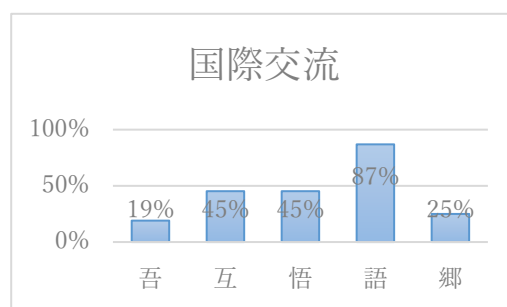
内容：14テーマに合わせて講師をお願いし、生徒はそのうち2つを選んで話を聞いて、翌年度の探究活動に向けての準備を始める。

② 目標の進捗状況、成果、評価・検証

①②台湾羅東高級中学校および韓国梅香女子情報高校との交流

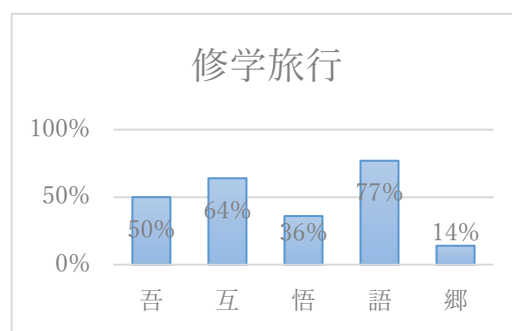
それぞれの高校生とオンラインを通じてやり取りを深める中で、各国の事情を理解するとともに、交流の積み重ねを修学旅行での交流事業につなげていく。

コロナ禍の2020年から始めたオンライン交流は、羅東高級中学校と30回、梅香女子情報高等学校とは2022年から9回行っている。



③修学旅行

SAH委員会が2学年と共に旅行計画を構築。令和5年度はコロナ禍により国内旅行となったが、令和6年度は5年ぶりに台湾修学旅行が実施できた。羅東高校とのオンラインによる交流を実施した上で、現地で台湾の高校生と学びあいながら台湾旅行を進めてきた。コロナ禍で中断した期間中も、オンライン交流は30回を超えており、今年度は4月に羅東高級中学校の生徒職員の本校訪問もあった。そのため、今年度の訪問では再会を果たすといううれしい機会ともなった。



今後に向けて、海外修学旅行が単に異なる文化の体験にとどまらず、人と人との交流を通してより深い交流になるように継続する。また、オンライン交流を含めた事前学習には探究的な活動を取り入れて、アカデミックな視点を持った取り組みにしていくことが課題である。

④SAC(須坂アカデミックチャレンジ)

<成果と課題>

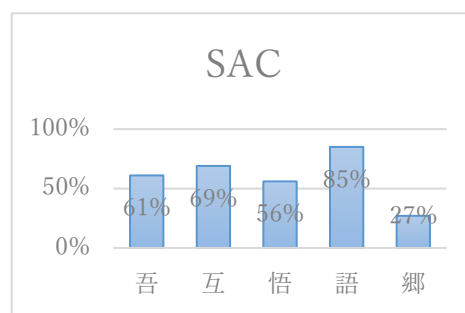
今年で5回目を迎えるSACは国籍や背景の異なるメンター(主に日本の大学で学ぶ大学院生)が、それぞれの研究分野を中心にしてワークショップを仕組み、2年生

は半日、1年生は3日間すべて英語で学習体験を積んだ。さらに、1年生は期間中に2コマ(1コマ75分)のオンラインによる米国ハーバード大学の学生とのトークセッションがある。英語を生きたコミュニケーションツールとして用いることの大切さや、それによって世界が広がることを実感できる取組みとなった。

事後のアンケートの結果は右の通りで、語学が飛びぬけているのは自明のことだが、それに加えて互学(協働性、協調性、他者理解)、悟学(探究力、分析力)の力がついたという点が自己評価ポイントとして高かった。

過去5年にわたって行ってきた活動だが、単に英語に対する意識の変化だけでなく、コミュニケーションの仕方の工夫などを通して自分自身や周囲に関する新たな発見があり、その後の高校生活に前向きに取り組む姿勢につながったことが最大の成果と言える。

今後に向けては、限られた予算の中でいかに現在の質を保ちながら生徒たちに充実した体験を提供できるかを研究していく必要がある。



⑤りんどう祭(文化祭)

今年で70回目を迎えた生徒会最大の行事であり、生徒の自主的な活動の中心にあるものである。コロナ禍でも常に「何ができるか」を問い続け、GoGaKuのすべての力を最大限に発揮することが期待でき、学年進行とともに生徒たちが目に見えて成長していく。

本校の文化祭の最大の企画が「龍制作」である。その年の文化祭が終わり、新執行部が立ち上がると、すぐに翌年の文化祭に向けて「龍執行部」が本部役員とは別に結成される。これには1,2年生の有志が40人以上集まり、自分たちの「龍制作」に向けて動き出す。半年以上の活動を経て生徒たちが得るものは数字では表すことのできない財産と言える。



⑥県内大学企業見学

<成果と評価>

毎年1年生全員を対象として、8コース程度を設定し県内の大学と企業訪問を組み合わせた取り組みとして行われているもので、令和6年度も8つのコースにわかれて実施した。

生徒の感想からは、実際の大学の様子や企業の取組みについて具体的な内容を知ることができることで、進路選択を考える一助になっていることが読み取れる。

一方で、同窓会・PTAの補助を得ながらも生徒からの徴収金を使って実施している現状のままで8コースを継続することは、物価高騰によるバス代などの値上

げ等もあり難しくなっている。今後に向けての予算措置が課題である。

⑦インターンシップ

<成果と課題>

例年行われてきた取り組みで、生徒にとっては企業へのアプ取りから実地、事後の礼状送付まで、社会とつながる体験学習として貴重な機会になっている。また、2年時からの探究を見据えて、事後にLHRを利用してクラス内プレゼン発表会を行っている。

課題としては、生徒が選択できる企業等を100以上探す必要があり、PTAの協力を得てはいるものの、事前準備が大変であることがあげられる。また、バス代等の値上げの影響もあり、PTAおよび同窓会の補助もあるが今後に向けて生徒の負担増が見込まれるため、これまでのコース数や多様な方面を確保できるかが課題となる。

⑧高校生による小学校英語授業サポート

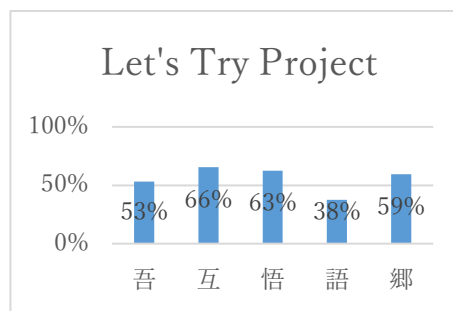
最寄りの小学校との連携の中で、本校生による小学生の学習支援、小学生による本校文化祭への協力を中心に活動している。学習では、5・6年生の英語の授業にお邪魔して、子どもたちとゲームを行ったり、プレゼンテーションを一緒に作ったり等の活動を実施している。また、文化祭前に生徒会の生徒たちが小学校へ赴いて、本校文化祭のシンボルである「龍」の鱗づくりに協力してもらうなどの取組をしている。

⑨Let's Try Project

古民家再生プロジェクトを立ちあげた本校生徒と須坂市内の高校生が連携して『Coto²(コトコト)』が設立され、須坂市の古民家を利用した高校生の居場所を設置し運営している。2022年には、須坂市内を中心とした地域の複数の高校生が集まって「Let's Try Project」

が設立された。現在は4つの高校から総勢40名余りが参加し、Coto²(コトコト)の運営のほか、隣接するカフェや須坂市と協力して地域を巻き込んだイベントを企画運営するまでになっている。

地域に根差した学校としての活動が、文字通り地域に広がっており、今後の発展が見込まれる。

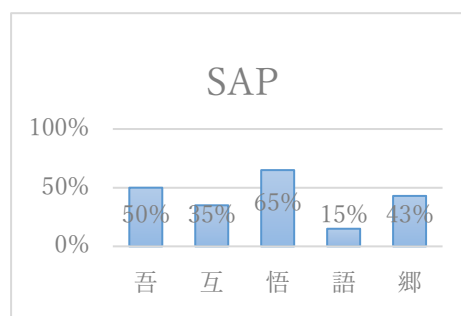


⑩SAP（県自然科学プログラム）

パナソニック財団の助成金を得る等、既に自然科学分野でも卓越した探究活動を実践している経過があるが、こうした活動を2学年の探究活動の中に導入する。

本校の SAP の取組みは 2019 年のスリランカ研修から始まった。翌年にはタイへの研修も企画したが、その後コロナ過で海外研修が不可能になった。しかし、海外での研修の中でもテーマの一つであった「水」を国内での研究テーマとし、未来の学校構築事業に合わせて国内での研究にシフトした。

2021 年からは、東京大学教育学部附属高度教育研究機構の協力も得て、2 年生の探究活動にも組み入れた形で継続的に研究を進められるようになった。こうした取組みが認められ、2023 年には一般社団法人日本環境化学会主催の第 18 回環境化学賞で奨励賞を受賞した。



⑪人権教育講演会

人権に関わる様々な問題について理解を深め、自ら考えて行動する力を醸成するために、外部からの講師を招聘して、レクチャーやワークショップを行っている。

⑫総合的な探究の時間

2 学年で 2 時間（月曜日 6・7 時間目）と 3 学年で 1 時間（月曜日 7 時間目）に位置付けて取り組んでいる。基本的には、①探究テーマはあくまで生徒主体で決定し教員は支援するだけにとどめる、②テーマは、分野を限定しない、③テーマの親近性に基づいてグループ分けを行う、として、外部の有識者の意見を採り入れ、年間三回（計画、中間、最終）の発表会を行っている。

⑬哲学対話

<成果と評価>

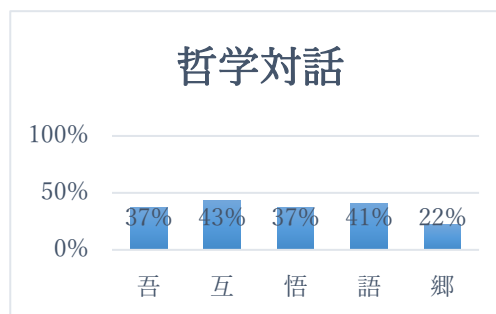
未来の学校構築事業の開始に先立ち、2018 年より実施してきている。その間、コロナ禍もあったが、「サイレント哲学対話」という形式も工夫しながら継続し、現在では須坂高校の定版的な取り組みになった。

現在は年 2 回の開催で、学年別や学年をまたいだ形式を取り入れながら、物事について深く考えたり、他人の意見に耳を傾ける力を身に付けている。

右の表は、GoGaKu のどの力が身についたかというアンケートの結果である。

生徒たちは、様々なことを考える中で、5 つの力がまんべんなく身についていると自己評価していることがうかがえる。

* GoGaKu：吾(自主性)、互(協働性・協調性)、悟(探究心)、語(国際性)、郷(地域性)



⑭岩波講座高校生編

1999 年から須坂市などが中心となり開催されている「信州岩波講座」の高校生版として発足した企画で、須坂市内の高校生が実行委員会を組織し、毎年講師を呼んで続けてきているものである。本校は第 1 回から中心メンバーとして参画しており、今年度も引き続き実行委員を出していく。本の文化と社会情勢を高校生目線で見つめながら講師を選定し、当日の会の運営まで行う。

⑮生徒会フリートーク

2018 年に生徒会執行部が「自由の再定義」を求めて自由参加のフリートークを開催して以降、年に 1、2 回のペースで開かれている。須坂の伝統である「自由」を切り口にして、学校生活の様々な問題に生徒個々の考えを述べ合う。GoGaKu の本質を突いたものになっている。

⑯東京大学金曜講座

<成果と評価>

東大教養学部が主催する「高校生と大学生のための金曜特別講座」2022 年度に加入し、本年度も実施している。自然科学分野から人文科学分野等、多岐にわたる講座を選択しながら、全国の高校生や大学生と共に受講し、様々な高校生、大学生の思考に触れる機会を得ることを目的に、希望者を募って受講機会を提供してきたが、テーマが多岐にわたるため、すべてを受講するような希望者はおらず、今年度は受講する生徒が数名にとどまった。

今後も継続するならば、学校の授業との連携を考えていくなどの方策が必要になると思われる。

その他

探究講演会

2 学年から始まる「総合的な探究の時間」を進めるにあたり、生徒が探究課題を考える材料提供を目的として、様々な分野で活躍している同窓生を中心に講師をお願いし、仕事の内容や、専門分野の話をしてもらう企画として、令和 5 年度に始めたものである。もともと「キャリア講演会」等の名称で行われていたものを発展させたもので、生徒たちの探究課題の決定の参考となることを目的としている。

<今年度の総括>

1 「未来の学校構築事業」で実現したこと

本校における 5 年間の実践で実現したことは「未来への投資」ができたということと言える。目標に掲げたグローバルな視野を持ちながら地域・社会に貢献できるリーダーの育成を、地域の学校でも、高額のコストを出さなくても、豊かな体験を積むことが可能になった。それは、言い換えれば「体験格差の解消」につながるものであり、公立の学校があるべき姿を示したと言える。

また、哲学対話や SAC(Suzaka Academic Challenge)などの新たな取り組みを加え、生徒たちが探究的なマインドを身に付けるサポートができるようになってきているという点で、大学のないまちの大学のような高校(「学校」)・困難な状況(コロナ禍)でも変わらぬ「学校」・変わることを厭わなないしなやかな「学校」という須坂ブランドが確立できたと言える。

③ 取組や成果の情報発信、普及に向けた取組

- ・学校ホームページによる取組の発信 (毎月1回)
- ・公開授業

5月25日(土)	PTA 総会に先立った公開授業	参観者 約 50 人
7月27日(土)	体験入学での授業体験・見学会	参観者 約 200 人
10月5日(土)	PTA 研修会に先立った公開授業	参観者 約 60 人
- ・りんどう祭 (文化祭)

6月29日(土)～30日(日)	一般公開	参観者 約 3,800 人
-----------------	------	---------------
- ・哲学対話

6月17日(月)	講師・アドバイザー	参観者 なし
9月9日(月)	講師・学校関係者のみ	一般参観者 約 25 人
- ・総合的な探究の時間発表会

7月4日(木)	テーマ発表会	アドバイザー 8 人
10月21日(月)	中間発表会	アドバイザー 8 人
R 7 1月27日(月)	最終発表代表選考会	アドバイザー 8 人
3月19日(木)	探究最終発表会	アドバイザー 8 人

(2) 校内実施体制

カリキュラム・コーディネーター氏名 (室井 明) (教科: 英語)

種別	＜ 取 組 ＞	生 徒	回数	担当係
G L O B A L	①須坂・羅東交流	全校	8 回	国際交流係
	②須坂・梅香交流	全校	4 回	国際交流係
	③修学旅行	2 年	11 月	2 学年
	④SAC(須坂アカデミックチャレンジ)	1 年	11 月	SAH 委員会
L O C A L	⑤りんどう祭 (文化祭)	全校	6 月	生徒会係
	⑥県内大学企業見学	1 年	10 月	進路支援係
	⑦インターンシップ (就業体験)	1 年	8 月	進路支援係
	⑧小学校英語授業サポート	希望	3 回	SAH 委員会
	⑨Let's Try Project	希望	通年	地域コーディネーター
	⑩SAP (県自然科学プログラム)	希望	通年	SAH 委員会
総 合 型	⑪人権教育講演会	全校	11 月	人権係
	⑫総合的な探究の時間	2・3 年	通年	探究委員会
	⑬哲学対話	1, 2 年	2 回	探究委員会
	⑭岩波講座高校生編	1, 2 年	1 月	生徒会係
	⑮生徒会フリートーク	希望者	随時	生徒会係
	⑯東京大学金曜特別講座	希望	通年	SAH 委員会

(3) アドバイザー

氏名	所属・職	助言分野
加納 幹雄	岐阜聖徳大学教授	教育学の専門家であり、文科省のSGH プログラムにも精通した専門家として、また様々な教育現場での経験を生かしてカリキュラム構築やこの事業全体を俯瞰して時宜に応じた助言および提言を行う。

(4) 連携コーディネーター

氏名	所属・職	支援内容
遠藤 守	名古屋大学情報学研究科	それぞれの専門分野の知見を活かして、探究的な学習の時間の講師として、テーマ決め・中間・最終発表にむけて、指導助言をいただく。
馬場 智一	長野県立大学グローバルマネジメント学部	
永田 将克	独立中小企業診断士 経営コンサルタント	
北村 千章	清泉女学院大学看護学部	
吉澤 俊	上田女子短期大学	
植原 俊晴	信州大学教育学部理科教育	
井上 陽介	須坂市 教育委員会 学校教育課	

(5) 実践校ごとの連絡会の実施実績

第1回	
実施日・時間	6月17日(月) 13:30 ~ 17:00
参加者氏名 (所属・役職)	松原雄一(校長)・石川順三(教頭)・関 修一(SAH 委員長)・室井 明(SAH 国際交流担当)
協議内容	未来の学校事業の現状と、5年間の振り返り 2年生「総合的な探究の時間」の見学
第2回	
実施日・時間	3月19日(水) 11:00 ~ 16:30
参加者氏名 (所属・役職)	松原雄一(校長)・石川順三(教頭)・関 修一(SAH 委員長)・室井 明(SAH 国際交流担当)・渡辺 舞(探究委員長)・鈴木純也(2年生探究担当)
協議内容	情報探究発表会(ポスターセッション・選抜者による発表)の見学 未来の学校事業の5年間の総括と、今後の自走に向けての取組みについて

(6) 項目別実施時期・期間

番号	実施（取組） 項目	実施日程（月）											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
Global													
1	台湾羅東高級中学校（姉妹校）との交流	①	②					③	④ ⑤	⑥	⑦		
2	韓国梅香女子情報高校との交流	①		②			③						
3	修学旅行								①				
4	須坂アカデミックチャレンジ								①				
Local													
5	りんどう祭(文化祭)							①					
6	県内大学企業見学					①							
7	インターンシップ						①						
8	小学校英語授業サポート						①	②					
9	Let's Try Project	通年											
10	SAP（県自然科学プログラム）										①		
総合型													
11	人権講演会							①					
12	総合的な探究の時間発表会				①			②			③		④
13	哲学対話				①		②						
14	岩波講座高校生編									①			
15	生徒会校内フリートーク		①							②			
16	東京大学金曜特別講座	①～⑬					⑭～⑳						